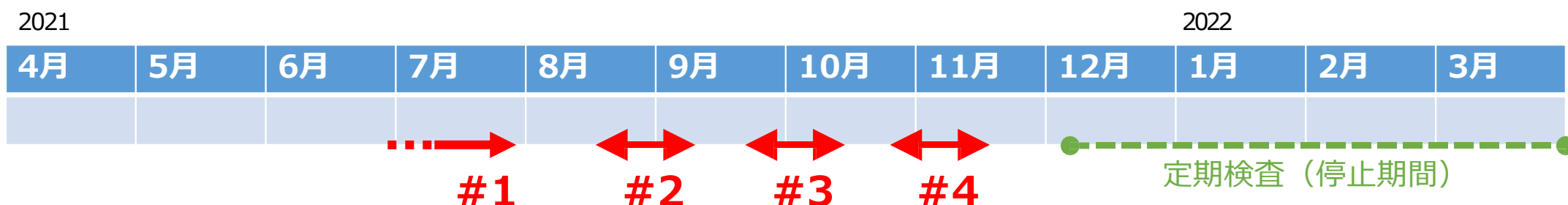


1. 2021年度の供用運転について

JRR-3は、25日間の運転（月曜に運転開始し、3週間後の金曜に停止）を1サイクルとし、年間7サイクル（175日間）の供用運転を基本としています。

ただし、2021年度は、2010年度以来の運転再開初年度のため、4サイクルの運転予定となっております。



ビーム実験は装置担当者(連絡先: <https://jrr3uo.jaea.go.jp/device/list.html>)

とマシンタイムを調整してください。

炉内照射実験は開放研(連絡先: kaihoken@tokai.t.u-tokyo.ac.jp) にて受け付けます。

実験**3週間前**までに、共同利用申込みを行って下さい。

	ビームタイム予定
Cycle # 1	7/12～7/28
Cycle # 2	8/16～9/10
Cycle # 3	9/20～10/15
Cycle # 4	10/25～11/19

全体のフロー

NRGユーザー

提出物

年度初来所前に

承諾書（実験に係る免責事項など）

放射線業務指定登録
放射線業務従事者証明書

取引先データ登録依頼書（未登録の方）

顔写真データ

実験4週間前

来所・出張申請書

共同利用（照射・実験室・実験）申込み
実験概要・計画
→ リスクアセスメントの作成

対応する手続き

個人の信頼性確認のための面談
核物質防護教育（対面）→ 常時立入者証の取得

安全教育（Zoom）→ OSLバッジの貸与
（原子炉施設保安規定・放射線障害予防規程）

旅費を口座へ振り込み

受付で出張完了報告書にサイン・宿泊費支払い
入構許可証の発行（3日以上滞在者）
核セキュリティ文化に関する教育（10分程度）

実験の実施

2-1. 実験時に必要な手続き：年度初来所の前に

対象者	書類名	提出内容	提出方法	提出期限
全員	指定登録依頼書 顔写真付きの公的身分証明書のコピー、 電離放射線健康診断結果のコピーを添付	JAEAで放射線業務指定登録 (OSLバッジ発行)を行うた めの書類※1	E-mailで提出	来所1ヶ月前～ 3週間前まで
全員	放射線業務従事者証明書	所属機関で放射線業務従事 者として登録済であることを 証明する書類※2	原紙郵送 (事前に写しをE-mailで提出のの ち、来所時に直接提出でも可)	年度初の3週間前
全員 (ただし入構期間が2 日以下の方は不要※3)	顔写真データ (JPEG形式) 顔写真付きの公的身分 証明書のコピー※4	入構許可証作成時に使用	E-mailで提出	来所3週間前まで
未登録者	取引先データ登録依頼書※5.	旅費振込先の銀行口座	E-mailで提出	年度初来所前日まで
研究代表者	承諾書(研究代表者用)	免責事項の承諾書	HPから様式をダウンロードし、記 入(要所属長の捺印) 原紙郵送、 または受付へ直接提出	年度初実験の来所 時まで
研究協力者	承諾書(研究協力者用)			

※ 各種書類フォーマットは開放研HPの「ダウンロード＞東海利用様式」
<http://www.tokai.t.u-tokyo.ac.jp/kaihoken/download/> からダウンロードできます。

※ 各種書類の電子メール・郵送での提出先は、
kaihoken@tokai.t.u-tokyo.ac.jp、〒319-1195 茨城県那珂郡東海村 白方2-4 原子力化学研究所内 共同利用管理本部 になります。

1. 所属が変更になった場合は再提出が必要です。本人確認のための写真付きの公的証明書の写しを添付してください。
2. 研究代表者・協力者ともに各自要提出です。OSLバッジを前年度から継続登録されている方も、年度初来所の際には必ず提出してください。
3. 入構期間が2日以下の方は、入退構の都度、正門にて手続きをして下さい。
4. 学生が、学生証の写しを身分証として提出する場合は、健康保険証の写しも併せて提出して下さい。
5. 最終提出または最終旅費支給から13ヶ月以上経過している場合は必要です。旅費支給を希望しない方は提出不要です。

安全教育について

2-1. 実験前に必要な手続き：年度初来所の前に

来所前の教育（3ヶ月毎を目安に受講）

来所前にうけていただく教育です。

- 内容 原子炉施設保安規定又は放射線障害予防規程に基づく保安教育
 （講師：JAEA産学連携戦略室 雨谷様）
- 開講日時 火曜日・金曜日 9:00～10:00 （年度2回目以降は9:45より参加）
- 教育形式 zoomによるオンライン形式（対面の場合は、研究炉実験管理棟100室）

受講方法

1. 受講希望日を回答。（受講希望日の10日前まで）
 - ◆ 来所3週間前～来所前日までに受講してください。
2. 受講日確定後、zoom URLを通知。アンケート用紙を配布。
3. 受講する。
 - ◆ 開始時に出欠確認をします。
 - ◆ 受講中は、カメラをONにし、顔が映るようにしてください。
4. 受講後、アンケート用紙に記入し、指定のメールアドレスに提出。
5. 英語で受講希望の方は、お早めにお知らせください。別途調整いたします。

来所時の教育（年度初来所時に1回）

大学開放研究室に到着し来所受付時に、追加教育を行います。

核セキュリティ文化に関する資料を配布しますので、内容をお読みください。

2-2. 実験時に必要な手続き：実験前の来所ごとに

対象者	書類名	提出内容	提出方法	提出期限
研究代表者	共同利用照射申込書	炉内照射を実施する為の申請	様式に必要事項を記入し、電子メール提出	実験の3週間前まで
	共同利用実験室申込書	JRR-3実験室利用の申請	様式に必要事項を記入し、電子メール提出	
	共同利用実験申込書	PGA, NRG, RESAを実施する為の申請	https://jrr3ring.jaea.go.jp/ より申込み	
来所者全員 ・研究代表者 ・研究協力者	来所・出張申請書	出張旅費申請・入構許可証発行 ・宿泊施設予約のために必要な情報	「来所・出張申請書」を電子メール提出。	来所3週間前まで
以下、該当する場合のみ提出				
対象地域からの 来所者全員	体調管理行動記録表	JAEAの新型コロナウイルス感染症対策に係る入構手続きのための書類	◆ 1回目提出：来所日の2週間前から1週間前の日までの1週間分をご記入下さい。 来所日から1週間前の日までに、E-mailでご提出下さい。 ◆ 2回目提出：1回目提出分の翌日から来所前日までの分をご記入下さい。 来所前日までに、E-mailでご提出下さい。 ※提出日が土日祝日と重なる場合は、その前日にご提出下さい。	
外国籍の方	Visit Proposal パスポートの写しを添付 ※2.	外国人がJAEAに入構するための書類	E-mailで提出	来所3週間前まで
研究代表者	研究協力者追加申請書	研究協力者の追加申請	E-mailで提出	決定後速やかに

※ 各種書類フォーマットは開放研HPの「ダウンロード＞東海利用様式」

<http://www.tokai.t.u-tokyo.ac.jp/kaihoken/download/> からダウンロードできます。

※ 各種書類の電子メールでの提出先は、大学開放研究室受付事務（kaihouken@tokai.t.u-tokyo.ac.jp）となります。

1. 入構許可証は、入構期間が3日以上の場合に発行されます。2日以下の場合には発行されませんので、正門で入退構の都度手続きが必要になります。
2. Visit Proposalのご提出時は、身分証明として『パスポートの写し』を合わせて添付してください。

共同利用（照射・実験室・実験）の申込み

PGA NRG RESAの場合

URL：<https://jrr3ring.jaea.go.jp/>
から申込み

提出対象者 研究代表者
提出期限 実験実施の3週間前

炉内照射の場合

<http://www.tokai.t.u-tokyo.ac.jp/kaihoken/download/>
の[東海様式]から様式をダウンロード
E-mail：kaihoken@tokai.t.u-tokyo.ac.jp

提出対象者 研究代表者
提出期限 実験実施の3週間前

共同利用照射申込書

大学研究版

マシンタイム申請

リスト表示へ戻る

申請者に関する情報
申請者情報を確認してください。現状と異なる場合は、マシンタイム申請の前にメニュー「ユーザ情報」で情報を更新してください。

申請者氏名

申請者メール

所属機関

所属部署

郵便番号 住所

電話番号

所属長確認 ☐ 確認した この申請について、所属長が把握した承認をされたことを確認してください

所属氏名

請求先部署名

請求担当者名

請求先郵便番号 請求先住所

請求先電話番号 FAX番号

利用申請に関する項目

申込者	所 属					
氏 名		TEL				

1. テーマと目的

研究 課 題

照 射 目 的	☐ 放射化分析	☐ 環境科学	☐ 考古学	☐ 工業材料（製品）
	☐ 地質学	☐ 生物学	☐ その他	
	☐ 地産科学	☐ 医学・人体組織		
	☐ RI製造	☐ 研究用（トレーサ用RI）	☐ 販売用（医療線源）	☐ 販売用（その他）

照 射 概 要

2. 試料とその内容

試料の名称	化 学 形	状 態	重 量	主な生成核種	生成量 (Bq)	半減期	照射経路
		☐ 固体（粉末） ☐ 液体 ☐ 気体					☐ 有 ☐ 無
		☐ 固体（粉末） ☐ 液体 ☐ 気体					☐ 有 ☐ 無
		☐ 固体（粉末） ☐ 液体 ☐ 気体					☐ 有 ☐ 無
試 料 の 分 類	☐ 金属・無機化合物 ☐ 動物・植物・魚介類 ☐ 半導体 ☐ 土壌		☐ 大気浮遊塵・フィルター ☐ よう素・臭素・塩素 ☐ 温泉水・河川水・地下水 ☐ 岩石		☐ 隕石・宇宙塵 ☐ 降雨・降雪試料 ☐ 血液・血球等 ☐ コンクリート		☐ 毛髪 ☐ 石油・石炭 ☐ 樹脂・有機化合物 ☐ その他
試料包装材 & 包装方法	☐ ポリエチレンフィルム シーム封入 ☐ ポリエチレン管溶封		☐ アルミニウムフویل包装 ☐ アルミニウムフویل シーム封入2重		☐ 石英管溶封 ☐ 石英管減圧封入		☐ アルミニウム管圧着封入 ☐ アルミニウム管溶接封入 ☐ その他
キャパシタの種類	☐ ポリエチレン (S) ☐ ポリエチレン (L)		☐ アルミニウム (S) ☐ アルミニウム (L)		☐ PEN (S) ☐ PEN (L)		キャパシタの個数

3. 希望する照射条件及び充料の受取

照 射 設 備	3	☐ HR1 水力照射設備 ☐ HR2 水力照射設備	☐ PN1 気送照射設備 ☐ PN2 気送照射設備 ☐ PN3 放射化分析用照射設備	☐ VT 垂直照射設備 ☐ RG 垂直照射設備 ☐ BR 垂直照射設備	☐ SH 垂直照射設備 ☐ DR 垂直照射設備
	4	☐ TA 水力照射設備 号 ☐ TB 水力照射設備 号 ☐ PN 気送照射設備	☐ Sバイブ ☐ Dバイブ ☐ Nバイブ		
	実験室使用	☐ 3号炉実験室 (PN-3)		☐ 3号炉実験室 (実験室 1&2) ☐ 4号炉実験室	
	照射条件	☐ ドライアイス封入 ☐ Cdシャッター使用* (4号炉気送管のみ)			
照射予定日	サイクル照射 R - 1 9 -		サイクルから		照射サイクル数
試 料 受 取	日 時 指 定 2007年 月 日 : 頃から		照射 時 間		
	☐ 照射直後				
	☐ 日時指定 (2007年 月 日 10:00) (試料開封日又は郵送発送日)				
	☐ 貸切便 搬出日 年 月 日 輸送先住所 (〒 -)				

- 実験概要・実験計画

- ・使用する実験装置、試薬等の情報
- ・特に、法令で定められた物質及び作業者の危険又は健康障害をおこすおそれのある化学物質を取り扱う作業を実施する場合は、「リスクアセスメント」を実施して下さい。廃液が出る場合は、中和方法まで記載して下さい。
- ・計画外の作業は禁止されています。

- 「リスクアセスメント」の作成

「実験計画」をもとにユーザーと機構装置担当者がリスクアセスメントを作成する。

- ✓ 作業に関するリスクアセスメント
- ✓ 化学物質に関するリスクアセスメント

実験者本人でないと分からない部分の記載についてご協力下さい。

- 供用利用員としての学生の管理について
(理事長マネジメントレビューを受けての対応について)

理事長会議において

- ・ JRR-3においては、外部ユーザーとして学生も来るため、学生の理解を十分確認して、不安全行動があったら即退場ぐらいの態度で臨んでほしい。
- ・ 学生だけで作業や実験を行わせないように、必ず誰か職員等が立会うこと。



安全管理基準に則ってリスクアセスメントを実施したうえで、対策によるリスク低減をする前において、明らかにリスクが些細な場合のみ1人（利用者）での作業は実施することできるが、「学生だけでの作業」は原則禁止とします。

- 実験時の書類の掲示について
 - ・ 作業管理体制表及び緊急時の連絡系統図は必ず掲示する。
 - ・ その他作成書類（RA、KY等）等は現場に（ファイリング、バインダー等）置いておく。
- ヘルメットの着用について
 - ・ ヘルメット着用除外エリア以外は着用とする。
ただし、ヘルメットを着用することによって、作業（安全）に不具合がある場合は要領書等に、ヘルメット着用の除外条件や帽子等の代替案を記載することで対応する。
また、PC操作時では着用を除外する等、着用除外のケースを検討している。

リスク評価結果に応じた安全管理体制

本文の項番号	低減対策前の リスクレベル	安全管理体制	解説
8.1.2(1)①	極めて低いリスク*1 ノートとり	—	本基準に定める安全管理体制によらず作業等を行うことができる。
8.1.2(1)②	些細なリスク*2 PC操作（機器と独立） 危険が全く無い機器操作 簡単な試料交換 寒剤の補給 リスクの小さな機器操作	【監督・巡視】 作業担当課長*4 供用利用安全管理統括者*5 【現場】 供用利用員	供用利用員1名以上で作業等を行うことができる。
8.1.2(1)③	小さなリスク*3 一般的な試料交換 リスクのある機器操作	【監督・巡視】 作業担当課長*4 供用利用安全管理統括者*5 【現場】 供用利用実験装置担当者 供用利用員	供用利用実験装置担当者を含む2名以上で作業等を行い、相互に安全確認を行う。

*1 リスクアセスメント実施要領に定める「作業リスクのチェックシート（様式－1）」により、リスクが極めて低いことが承認された供用利用における作業等（例：試験・実験における機器調整、軽量物取扱作業又は整理作業）

*2 リスクアセスメントの結果で、一般：D、放射線：Rd、施設：Fd、環境：Edであること

*3 リスクアセスメントの結果で、一般：C以下、放射線：Rc以下かつ施設：Fd、環境：Edであり、D,Rd,Fd,Edでないこと

*4 機構が所有する実験装置の実験

*5 大学等が所有する実験装置の実験

安全管理の基準・要領等の説明会（3/31）資料より

原子力科学研究所についたら

正門で

原科研正門（中央警備室）にて入構手続きをします。

1. 窓口で身分証の提示（運転免許証等。大学職員証は不可）
2. 臨時立入者証、車両通行許可証（該当者のみ）の受け取り※
3. 研究炉実験管理棟3F「大学開放研究室」に向かいます

※臨時立入者証、車両通行許可証（該当者のみ）は、共同利用受付カウンターへ持参してください。

入構許可証発行対象者は、受付にて交換となります。
（車両通行許可証は、車両通行ステッカーへ交換）。

大学開放研究室で

共同利用受付カウンターにて以下の手続きをしてください

1. 来所受付（旅費申請書類への署名）
2. 入構許可証（3日以上滞在の場合）※1・車両通行ステッカー（該当者のみ）の受け取り
3. OSLバッジ、安全作業ハンドブックの受け取り
4. 来所時教育（10分程度）

※入構許可証は、入構期間が2日以下の場合は発行されませんので、正門で入構の度に臨時立入者証の発行手続きを行ってください。

※現在、コロナウイルス感染拡大対策により、体温が37.5℃以上の場合は、入構をお断りしておりますので、ご了承ください。

3. 安全教育と来所後の流れ

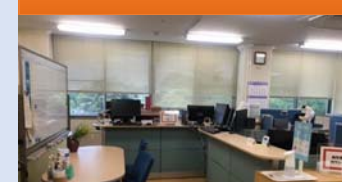
正門（中央警備室）



研究炉実験管理棟

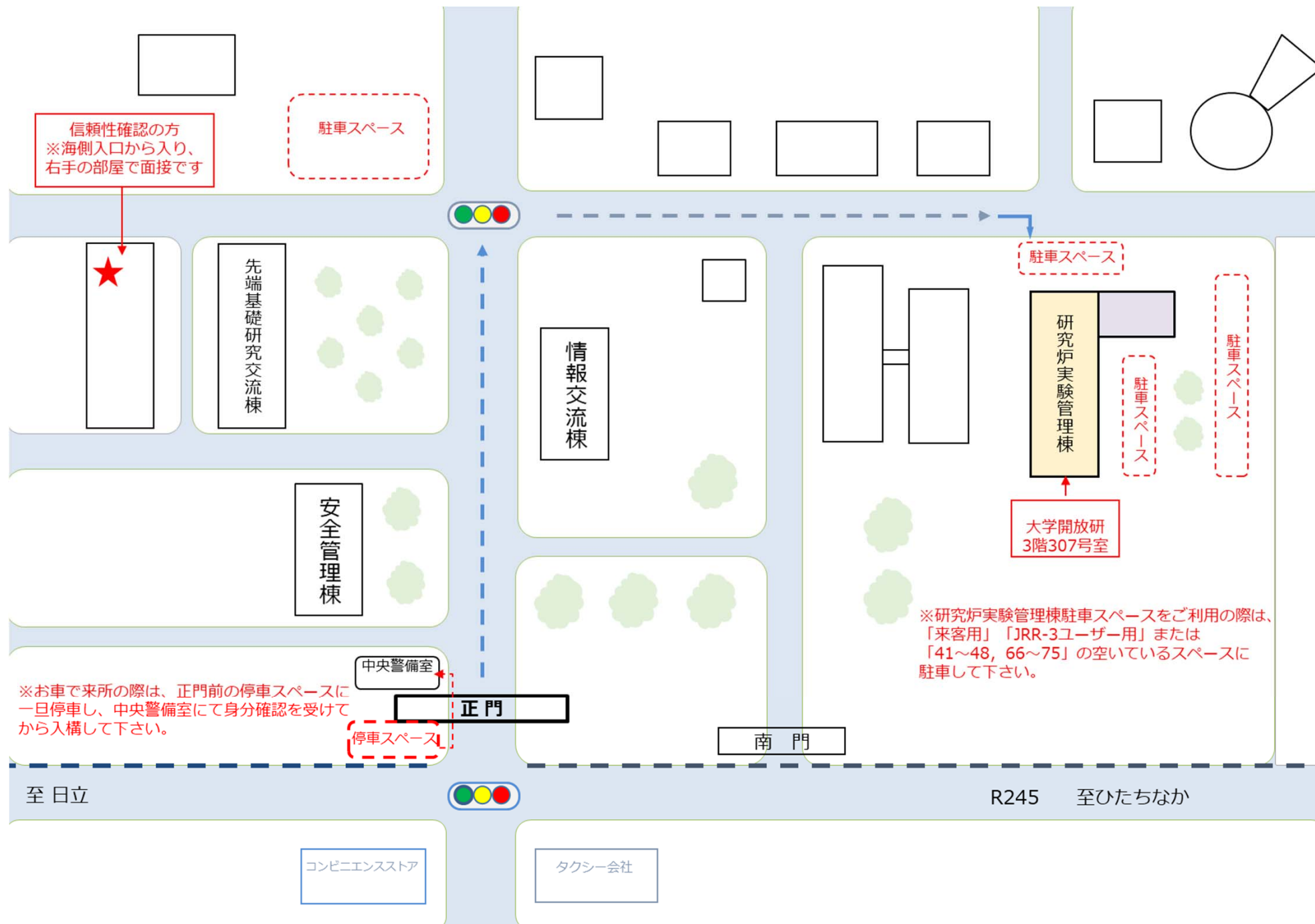


共同利用受付カウンター 研究炉実験管理棟307号室



共同利用受付業務時間
月曜日～金曜日 時間9:00～17:00
（但し、土日祝、年末年始を除く）

構内案内図



実験終了後、お帰りの際

3. 来所後の流れ

1. 共同利用受付にて帰任手続き

研究炉実験管理棟 3 階の共同利用受付カウンターに、貸与物（OSLバッジ、安全ハンドブック）を返却する。

業務時間内は、直接受付窓口にご返却ください。

窓口業務時間外に帰任する場合には、
貸与物（OSLバッジ、安全ハンドブック）は、

受け付けカウンターを背に、廊下を右に出て右側にある返却ボックスへ返却する。

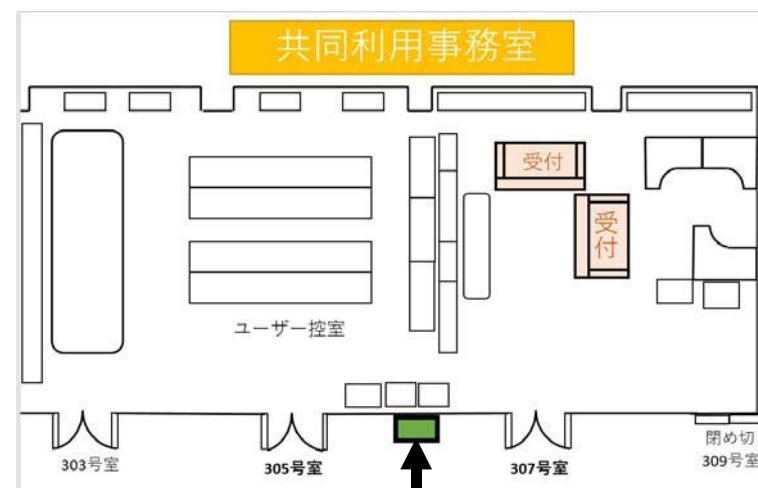
2. 正門（中央警備室）への立ち寄り

原科研正門（中央警備室）の窓口に、

- ・入構許可証
 - ・車両通行用ステッカー（該当者のみ）
- を返却する。

共同利用受付業務時間

月曜日～金曜日 時間9:00～17:00
（但し、土日祝、年末年始を除く）



貸与物の返却ボックス

